

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学部
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 各種留学生の受け入れ数を拡大する	→文学部における各種留学生受入者数	B
2. 交換留学による海外派遣学生数を拡大する	→文学部から派遣する正規交換留学生数	A
3. 学部の全専任教員数に対する海外派遣者数を全教員比半数以上、また客員教員を安定的に受け入れる（年間5～7名程度）	→年度別海外研究者受入数、専任教員海外派遣者数	A
4. 外国人（ネイティブ）の専任教員数を増加させる（現行2名）	→文学部専任教員における外国人（ネイティブ）数	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目7.0.1	(現状説明) 新基本構想の軸となる理念のひとつに国際化がある。文学部では文学言語学科や文化歴史学科などに外国文化に関わる研究を主軸とする専修が多く、学部のアドミッション・ポリシーに掲げられている全人的陶冶をめざす国際交流のあり方を模索し、学問傾向が重なる他学部との差別化もはかっている。
☆ 小項目7.0.2	(現状説明) 日本文化研究および異文化研究の拠点として、また国際的にも通用する高い水準の学問をめざし、日常的に教員・学生ともに積極的な国際交流が行われている。
☆ その他	

《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【文学部】			単位	2005	2006	2007	2008	2009	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—		
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—		
指標3	海外からの学生の受け入れ	国 数	国	—	—	—	—	—		
		外国人留学生	正規	人	33	38	42	41	43	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	人	27	31	42	48	48	
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	1.0	1.2	1.3	1.2	1.3	
			交換	%	0.8	0.9	1.3	1.4	1.4	
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—				
指標4	海外への学生の派遣	国 数	国	—	—	—	—	—		
		人 数	長期	人	50	32	53	59	50	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	人	72	61	82	61	100	
		在籍学生比率	長期	%	1.5	1.0	1.6	1.8	1.5	
			短期	%	2.2	1.9	2.5	1.8	2.9	
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)	長期	人	2	0	2	0	3		
		短期	人	3	7	5	3	3		
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)	長期	人	1	1	1	1	0		
		短期	人	43	38	42	42	45		
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	—	—	—	0		

注) 正規、交換について

正規とは学位取得目的、交換は正規以外とする。

注) 長期、短期について

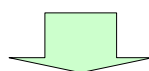
指標4: 1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。

指標5・6: 1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目7.0.1	
★小項目7.0.2	昨今の経済事情もあり、日本から派遣する学部生の長期留学者数は減少したものの、短期留学者数は大幅に増加した。また海外からの受け入れ学生数や研究者の派遣・受け入れ数は微増ではあるが、順調に推移している。
その他	



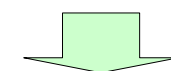
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目7.0.1	
★小項目7.0.2	2011年度から外国人専任教員1名の着任が決定している。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目7.0.1	
★小項目7.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目7.0.1	
★小項目7.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○短期留学者数の増加や外国人専任教員の着任は評価できます。文学の特性からは、もちろん海外経験や実際の語学に触れる機会は重要ですから、今後も積極的に国際交流を進められることが望まれます。

【学内委員】

○小項目7.0.1の説明においては、まず(方針)として、方針そのものを記述してから、現状説明してください。

○小項目7.0.2の説明において、「積極的な国際交流」と言える根拠をお書きください。

○学生の受け入れと派遣、教員の受け入れと派遣は順調に拡大していることは評価されます。さらに努力が続けられ、国際交流がより活発化することが期待されます。

○国際交流については評価できます。文学部の独自性を出していくことが期待されます。

○設定された目標の進捗評価が「A」であれば、新たな目標の設定が必要かと思えます。

○改善すべき事項はないのでしょうか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

(現状説明7.0.1)に文言(下線部)を追加し、次のとおりとする。

新基本構想の軸となる理念のひとつに国際化がある。文学部ではこの理念に則り国際交流が行われている。そもそも文学部では文学言語学科や文化歴史学科などに外国文化に関わる研究を主軸とする専修が多く、学部のアドミッション・ポリシーにも掲げられている全人的陶冶をめざす国際交流のあり方を模索し、学問傾向が重なる他学部との差別化もはかっている。

★ (現状説明7.0.2)に文言(下線部)を追加し、次のとおりとする。

日本文化研究および異文化研究の拠点として、また国際的にも通用する高い水準の学問をめざし、日常的に教員・学生ともに積極的な国際交流が行われている。これは下記のデータの安定した数値からも裏付けられる。

自由記述：改善方策というほどものものではないが、就職活動や家庭の経済状況などから留学に興味を抱きながらも消極的な学生が増える傾向が全国的に見られるなか、留学制度やさまざまな支援制度の存在などについて、入学時のガイダンスなどでの周知を継続的に行い、学生の意欲を喚起していきたい。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

7.0.0.S1	協定校と相互交流数(学生・教員)
7.0.0.S2	国別国際交流協定締結先機関数
7.0.0.S3	人的国際学術交流数

<個別的な指標>
